日本サーバス本部会報

2020. 1　日本サーバス会長

新年おめでとうございます。年末から年始にかけて、こちら京都は例年ほど寒くなく、過ごしやすかったですが、皆さんはいかがだったでしょうか。新しい年が皆様にとって健康で楽しく幸多い年となりますように、心からお祈り申し上げます。

昨年はこれまで経験した事のない酷暑、豪雨、台風、地震など災害の多い年でした。改めて地球温暖化の恐ろしさを感じます。国際サーバスでも地球温暖化の事は真剣に取り上げられ、その防止に向けてサーバス会員へ努力が提起されています。私たちも非常に小さな事でも身の回りから地球温暖化を防止する努力をしていきたいと思います。

毎年年末に行われる今年の漢字、2019 年は平成が終わり、元号が令和になった令和の「令」の文字が選ばれ、京都、清水寺の森清範貫主によって令の文字が書かれました。「令」が選ばれた理由として新しい元号の「令」和に明るい時代を願う国民の思いが集約されたとしています。森清範貫主は、「元号がかわり、皆さんの気持ちが新しくなったのではないかと思う。これからの時代も皆で仲よく、力を合わせて生きていかなければいけないと改めて感じた」と話していらっしゃいました。私たちも皆で仲良く力合わせて良き 2020 年を作っていきましょう。

今回の会報は、次の内容でお届けします。

1.日本サーバス 2020 年の幕開け

2020 年の年頭にあたって・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・会長　H.T

「私の人生を変えたサーバスの旅」・・・・・・・・・・・元サーバス会員　T.K

国際サーバスもデジタル化――電子 LOI が始まります・・・IT 委員長　Y.H

IT 副委員長・SOL 管理者 N.S

2. SERVAS Traveler からの嬉しい便り

Learn to understand Japan with Servas・・・・・・・・Germany D H&S

“Language Lesson & Servas Visit”・・・・・・・・・・・・Germany L C S

3. SERVAS　INTERNATIONAL

国際サーバス会報の紹介・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・国際部　N.M

編集後記にかえて・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・会長　H.T

1.日本サーバス 2020 年の幕開け

2020 年の年頭にあたって　　会長　H. T

2019 年に前会長 O. T さんから会長職を引き継ぎ、皆さんのご協力を得て、何とか新年を迎えました。2020 年は新年早々とっても嬉しいお知らせがあります。元サーバス会員、兵庫県明石市にお住い

の T.K さんから日本サーバスに寄付金をいただきました。寄付額は贈与税非課税限度額ぎりぎりの 110 万円です。サーバス本部会計に寄付として受け取りました。T さんは日本サーバスがまだサーバス友の会という名前であった時に入会された非常に古い会員で、日本サーバス副会長でいられた頃の A.T 様をよくご存じの方です。

ここで関係のある所だけ少し日本サーバスの歴史を振り返りましょう。1962 年 1 月 20 日、英国人の R.S 氏が来日し、日本にサーバスを紹介されました。そして、３月６日 A.M 氏の呼びかけでサーバス設立準備委員会を設立、３月１１日サーバス設立“ Working Committee”が 結成され、９月８日サーバス友の会が創立されました。初代会長は A.K 氏でしたが、1963 年に会長は A.M 氏に代わりました。副会長という職はありませんでした。1971 年副会長という職が設けられ、A.T 氏が就任されました。「サーバス友の会」の名称が「日本サーバス Servas Japan」に改称されたのは、1982 年です。

寄付金の使途について次の国内会議で決めたいと思いますので、各支部で寄付の有効な使い方について考えて下さい。そして、それを持ち寄り次の国内会議で検討し、寄付金の有効な使途を決めます。寄付は次の国内会議まで手をつけずに本部会計で保管しておきます。

次に今年度の日本サーバスの課題です。皆様がホストをされ、サーバストラベラーからの Letter of Introduction(LOI)をご覧の方はお気づきかと思いますが、今までの紙スタンプに代わり、Servas Online(SOL)を利用した電子スタンプでの LOI(関連する記事 4.5 ページをご参照ください)も使われています。日本は今年の LOI 発行数（スタンプ使用数）が 50 以下なので、2020 年度から電子スタンプに移行するようにと国際サーバスから連絡がありました。IT の役員と相談し、今の日本の状況（SOL へのログイン率等）では電子スタンプに移行するのは難しいと結論し、国際サーバスに日本の実情を伝え、2020 年は紙スタンプを認めてもらいました。けれども、2021 年度からは電子スタンプに移行しないといけません。IT の役員でいろいろ考え、支部長さんと手を携えて、会員の皆様が理解し、作業が無理なく進んで、電子スタンプの体制にスムーズに移行出来るように方策を練って貰っています。皆様のご協力をお願いします。

私の人生を変えたサーバスの旅　　元サーバス会員　　T.K

僕は思い切り甘えん坊の身勝手な男の子だった。と申しますのも、家が商家で後継ぎの男の子が欲しいにもかかわらず、女の子しか出来なかった。長女に続いて次女が生まれたが３歳で亡くなり、又、長男も１歳で亡くなった。そして、僕が８年目にしてやっと生まれた子宝だった。わがまま気ままな性格は１９歳まで続いた。

大学受験を控え、周りの皆の夢は一流大学に合格し、一部上場の企業に入り、恋愛をして子どもを作り、小さいながらも庭付きのマイホームを持ち、最後は家族に見守られながらしっかりと手を握られて死んでいくというものだった。僕はこんな当たり前のような姿で人生を送りたくないと思った。それは堀江健一郎とか、植村直己、三浦雄一郎氏の体験録を読んだからだ。本屋に立ち寄り、その中から「１日３ドル・・・・」と言う本を見つけ世界一周を夢見た。学業の成績は中位であったので英語もそれ程堪能でもなかったが、ただ甘えん坊の理想主義がそうさせた。誰もやっていない事をやってやろう、勉学で負けているのなら実行で勝ってやろう、体験で勝ってやろうと考えた。しかし、それは甘かった。渡航にはお金が必要だったのだ。意地っ張りな僕は親にお金を出してもらうのが嫌で、昼間は大学で勉強、そして、アルバイト、夜は神戸港で朝方

までのウオッチマンと言う仕事を見つけた。それによって４年間で 100 万円という資金を手にした。もちろん、これさえも片道キップに等しい金額だった。１ドル￥320 円の時代だったからである。これから後の僕は「世界一周ひとりぼっちの旅」という本に詳細に書かれているが、とにかく、この体験により死ぬ目にも何度か遭遇し、自分のわがままが克服されたのだった。まずは好き嫌いがなくなり、行動は全て自分で行なった。気を抜くと持ち物がすべて盗まれたり、サーバスホストが見つからない時等には、橋の下とかマンションの踊り場、バスの停留所とか駅の片隅で何度も不安な夜を過ごした。お金がないために食べる物も食べられず、85 キロあった体重が 55 キロになっていた。　英国では豚のしっぽだけの夕食、フランスでは野菜とフランスパンだけの夕食、時には店先にぶら下がっていた犬の肉さえ食べた。食事に問題はあったが、目の前の物を目をつむってでも食べないと死んでしまう。そんな思いでのみ込んだ事もしばしばあった。サーバスホスト宅では日本のように特別扱いはせず普通の日常生活だったが、日本では考えられない程フランクで親切であった。お客様扱いはされなかったが、本当に家族の一員として扱ってくれた。そして、日本人には気に入らない事だと思うが、イエスとノーの返事ははっきりとされた。自分たちの行動をゆがめてまでトラベラーを受け入れようとはしなかったし、御馳走を出してもくれなかった。しかし、その国々の本当の日常生活を体験することが出来た。日本で味わうフランス料理、北欧料理、インド料理、スイスフォンジュ等はみな偽物だ。スイスの昔風のフォンジュは現地民でもめったに料理しないと言って、古鍋を倉庫から出してきてワインのきついフォンジュを作って食べさせてくれた事もあった。このように数えきれば切りがないが、日本では味わえない微妙な味が殆どだった。米国ではサーバスホストに２ヶ月にわたりサンフランシスコの郊外でのキャンプカウンセラーの仕事を紹介してもらい、軍資金を得た。このキャンプ施設では、僕はコテッジに小学生位の男児８人位を受け持ち、彼らのファーザーとして過ごした。30 人程参加している子供たちに、柔道、空手、折り紙、暗室写真現像技術等を教える担当に回された。その反対に、他の教員からは、ヨット、乗馬、その他のアウトドアーを教えていただいた。２年間で 200 件に近いサーバスホストにお世話になったのだが、そのホストのリストと持ち金の殆どをインドの夜行列車の中で盗まれてしまった。リュックと下着、後は腹巻に入っているパスポートと、わずかばかりのトラベラーズチェックのみであった。そんな中でどうして日本に帰れるのだろうか。今更両親に「金送れ」なんてみじめな白旗はあげたくなかった。ここからはサーバスホストはいなかったが、幸い物価は安かったので、宿泊にしても食べる物にしても、欧州の 10 分の１位の経費で移動出来た。シルクロードを横切り東南アジアから、沖縄についた時はポケットには日本円で１万円札１枚しかなかった。手持ちの１万円では現地での宿泊と、神戸までの船賃は足らない。不幸にも飛行機が沖縄についた時には船は前日に出港したばかりで、次の出港は６日後だという。ユースホステルに泊まったとしてもお金が足らない。２日位は空港の待合室で寝た。それ以後はまたまた橋の下。さすがに不安になり、両親に連絡しようとしていた所、ある青年と出会い泊めていただいた。彼はその条件に一緒に神戸に連れて行けという事だった。そこから大島汽船で一緒に神戸港に無事帰国出来た。神戸港に着いた時、ポケットに手を入れるとわずか 5000 円と小銭のみしか手には握られていなかった。

この体験からそれ以後もどんな困難にも立ち向かうことが出来た。視覚障碍者になり、離婚という形で妻に見捨てられたが、事業での失敗も克服し、今や癌センターで癌と闘っている。なにくそ、負けてたまるかの精神だが、癌の奴だけには僕の気力も簡単には通じない。

まあこんな所ですが、サーバスを知らなかったならば、僕の人生は無味乾燥で途中で自殺していかもしれません。本当にサーバス万歳！こんな体験から本を 40 年ぶりに書いています。これは僕の自

慢話だけではなく、若者にこの狭い日本だけではなくて世界に目を広げて羽ばたいてほしいとの思いから出版したものでもあり、視覚障碍者でも本は書ける、出版する事も出来る、そんな思いを同じ障碍者にも体験してもらいたいという気持ちです。

出来ないこととしない事とは違う。僕の尊敬する、石川洋先生の言葉です。

2019 年 12 月 20 日

ホームページ　http://rokky.sakura.ne.jp/private/

国際サーバスもデジタル化――電子 LOI が始まります

IT 委員長　　Y.H

IT 副委員長・SOL 管理者 N.S

国際サーバスの Web 上のオンラインシステムである SOL（Servas Online）に日本が参加してから 2 年半になろうとしていますが、会員の皆様は活用しておられるでしょうか？ サーバス旅行の際のホスト探しが随分楽になったと実感されている方も多いと思います。SOL にはサーバス旅行の時にホストに提示する LOI（Letter of Introduction）を作成する機能もあります。これを利用すると、従来のように LOI 用紙に記入し顔写真を貼って支部長に送り、紙スタンプを貼って送り返して貰う手続きに比べ、労力も時間も大変少なくなります。

ただこの機能を使うには、会員がスマホやパソコンを使ってネットで買い物や予約をする程度のスキルが必要なことから、日本サーバスでは今までは利用していませんでした。しかし昨年末に国際サーバスから、日本サーバスも紙スタンプでなく電子スタンプにするように、すなわち会員が LOI を SOL で作成し、管理者が電子スタンプを付与した電子 LOI を発行するようにとの指示があり、今年を準備期間として 2021 年初めから移行することになりました。

では**電子 LOI とは**どのようなものでしょうか？ 右図は、カナダで発行された方の LOI の例です（個人情報保護のため空白の部分がありあります）。写真が左上に、その右に**電子スタンプ**があり、番号、有効期限、発行国が記述されています。

Letter of Introduction
(version 2019)
(lettre d'introduction) (carta de presentación (LOI))

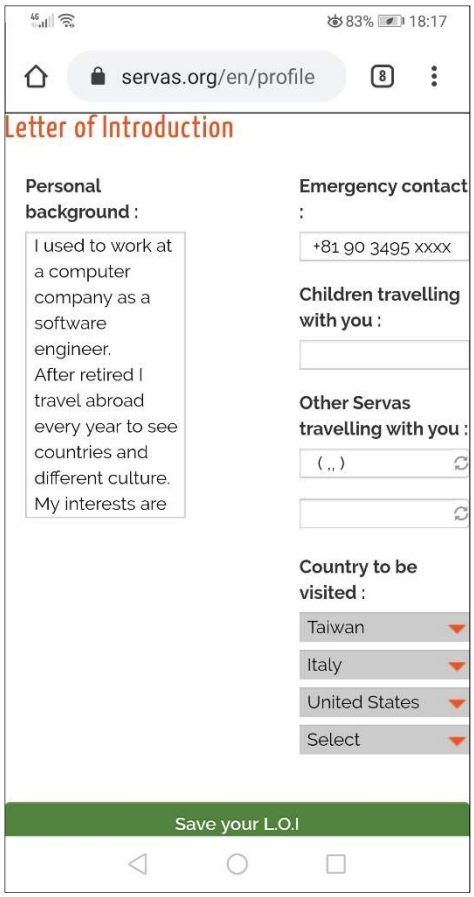
Stamp (timbre)(sello): CA-2019-0115
Valid Until : (válido hasta) (valable jusqu'au) 14-Nov-2020
Stamp Issued In (timbre émis en) : Canada
member n° (n° de membre) (miembro n°) 47255

Family name, first name (nom, prénom) (nombre, apellido) : Rou -Claude
Sex (F/M) (Sexe) (F/M) : Female
Age (âge) (edad) : 44
Occupation (profession) (ocupación) : Program Coordinator
Permanent address (adresse domicile)(dirección) : 1660, Bolk 3, Sherbrooke
Phone (tél.) : Cellphone (tél. mobil): : Email : mcro @gmail.com
Other Servas members travelling with you (autres Servas voyageant avec vous) (otros Servas miembros viajando contigo) : Dar rland-Tremblay
Children travelling with you (enfants mineurs voyageant avec vous)(hijos menores de edad viajando contigo) : Chai (12), Fl nce (10)
Emergency contact (name, phone, email) en cas d'urgence prévenir (nom, tél., email)(en caso de emergencia contactar (nombre, telf. email)) : Daniel Ro @yahoo.ca, +1 (5** 434-0169)
Languages spoken (langues parlées) (idiomas hablados) : French (Fluent), English (Basic), Spanish (Basic)
Personal background (présentez-vous) (presentación personal) :
Hi, My name is Ma ier. I work as the Biochemistry Program Coordinator at Université oke. I wish to travail with my family through SERVAS. I have taken an extended leave at work to join my whole family in travelling in Australia and New Zealand. I have travelled with SERVAS in France and really liked the experience. I think it could be very good for my family to see people from other countries in their homes. I would like to meet with people and share with them. It would help to better understand the Oceania reality and learn some English at the same time. I have a conversational knowledge of English and my kids are learning it as a second language. I am curious about other cultures. I have started reading about New Zealand and Australia. I discovered how they are different from each other and very different from Québec and Canada. I like to bike, run, and read.
I understand the aims & rules of Servas and will abide by them. (je certifie sur l'honneur avoir pris connaissance des statuts et du règlement intérieur de Servas et je m'engage à les respecter)(Entiendo las recomendaciones y normas de Servas y me comprometo a respetarlas).
I will keep all host information confidential, to be used only by me, and will not ask to be hosted without a valid LOI (Me comprometo a mantener el carácter confidencial de los datos personales de las anfitriones, sólo utilizados por mí. No voy a pegunta hospitalidad sin una carta de presentación (LOI) válida). Ce document n'est valide qu avec le Timbre International, un N° de timbre, une date de limite de validité ainsi que le nom et l'email de celui qui l'émet. Vous pouvez également en vérifier la validité en allant voir le profil de l'adhérent sur www.servas.org, le numéro du Timbre International doit y figurer)
Approved by (aprobado por) : John W an
Email (email) : jcwh @shaw.ca
Issue Date (fecha de emisión) : 14-Nov-2019
Travel Start Date (fecha de viaje) : 14-Nov-2019
www.servas.org
This document is not valid without a stamp, stamp number, expiry date, and approver's name and email address. You can also verify that it is valid by checking the member's profile in www.Servas.org to see if there is a stamp number listed.
(este documento no es válido sin sello, el número de sello, la fecha de expiración y el nombre y email de la persona encargada de la aprobación. Se puede verificar la validez de este documento en el perfil del viajero en www.servas.org y si figura un número de sello.)

最近 LOI を発行された方は気付かれたでしょう

が、この記述項目は紙の LOI と同じです。違うところは、作成手順が簡単化されるところなのです。

では**作成方法は**どうなのか見てみましょう。左図は、スマホで LOI を編集する画面です。入力項目は、Personal background、緊急連絡先、同行する子供、同行するサーバス会員、そして訪問予定の国の５項目だけです。最後に最下段の保存 (Save) を押します。



この後、「Letter をダウンロードする」のボタンを押すと pdf ファイルとして取り出せるので、それを支部長とかの承認者に電子メールで送れば良いのです。

個人の基本情報と写真が Profile として SOL に事前に定義されていれば、他の必要な項目は自動的に追加されているので、承認者はその内容と LOI 代金の入金を確認し、SOL 上で発行日、有効期限を入力し電子スタンプを付加します。

承認済の連絡を受けたら、申請者は再度 Letter をダウンロードすると、前ページのカナダの例のような電子スタンプが付加され承認者の名前が入った電子 LOI が pdf ファイルとして得られます。旅行の際は、それをカラー印刷して持参すれば良いのです。

また、海外のホスト予定者は SOL の Find Member を使って申請者のプロファイルで、LOI の内容と電子スタンプの有効期限、発行番号も見ることができるので、安心して申請者を引受けられます。

このように、LOI の申請時の承認者とのやりとりが最小限の Web 入力とメールだけで済み、スキャナー読込みや郵送など紙を扱う手間がないため、申請者、承認者とも労力と時間の節約ができることになります。

以上のような手順なので、スマホやパソコンを普段使って写真や pdf ファイルを扱っている方には簡単なことですが、使い慣れていない方には困難と思われるかも知れません。このため、そのような方々が電子 LOI を作成するのを援助する体制を、現在、支部本部間で相談して準備しようとしています。今後サーバス旅行を予定されている会員の方は、支部役員に連絡してどのような援助が必要かをぜひご相談してみて下さい。安心して旅行の準備ができるようお手伝い致します。

2. SERVAS Traveler からの嬉しい便り

Learn to understand Japan with Servas

Germany D. H.&S.

From September 11th to December 3rd, I traveled with my husband through Japan. We had long planned to get to know this fascinating country, but so far we had not been there because we expected linguistic problems and a very different culture. We were a bit afraid, even though we had already explored numerous countries on different continents as backpackers and on road trips. If one reads travel

reports about Japan, there are repeatedly mentioned, for us strange peculiarities, such as the extra flaps for the toilet visit, the multi-functional toilet with bidet, the warmed toilet seats and the background noise to avoid that human noise is to hear for outsiders, as well as the habit of the Japanese to use the same water for a bath as whole family. We tried to inform ourselves well in advance, so as not to step into every faux pas. Since the Japanese have the reputation of not being able to speak a lot of English, or not having the courage to use it, my husband tried to learn Katakana and Hirangana for four months via App Duolingo. Learning Kanjis is a life's work, even for most Japanese and impossible in that short term.

Precisely because the culture is so different and because language problems seemed preprogrammed, we decided to use Servas as often as possible to get behind the scenes and understand the foreign culture better. The pre-planning was quite time-consuming and tedious. If you travel for three months and can´t even predict in advance how to travel, because Japan Rail passes are only valid for 1-3 weeks and therefore made no sense for us, it was difficult to say when we would be at different places. I wrote to all eligible hosts as early as June and asked for a visit within a time span that made a visit to the area probable. About half did not respond, some of the mail came back because something was wrong with the address and some sent a rejection. With those who had promised us to be welcome at a certain period of time, we stayed in mail contact and it finally came to 7 encounters. The effort was definitely worth it, because the hosts we got to know made our trip a wonderful experience that we will never forget. With this travelogue we would like to say thank you once again for all the effort our hosts have made to give us an intense and unforgettable time.

Shortly after our arrival in Tokyo, R and N enabled us to attend a religious-traditional festival in which the neighborhood shrine (Mikoshi) was carried on a frame through the residential area. With loud shouts and whistles, attention was drawn to our small procession and on the way there were given refreshments and snacks. We were warmly welcomed by the group and got invited to carry the shrine a part of the way At S and M´s house in Sendai we were introduced to the peculiarities of the Japanese bath, got an insight into their own company, were able to enjoy the

excellent cooking skills of S and got the tip for a wonderful boat trip in the bay of Matsuchima. In the evening, we kept our fingers crossed for the Japanese women's team at the Volleyball World Cup, because S is a truly contagious fan.

Since we had driven here by train, we decided to rent a car in Sendai for the next two months. This gave us the opportunity to easily get into smaller towns, national parks and to remote Servas hosts. It also allowed us to sleep in our car some nights between our Servas visits. To sleep in a car is common practice in Japan. We were also able to drive to free but remote campsites. Our next hosts were N, M and little Tsumugi in Fukushima. On the first evening we were invited to attend an event in a community center. It was a dinner party with the opening of a photo

exhibition of the big earthquake and tsunami on 11.3.2011, which caused worldwide sad notoriety due to the disaster in the nuclear power plant Daiichi on the coast of Fukushima Prefecture. Photographer K. H and publisher I. K were there. K himself was a victim of the quake and now tries to encourage the local people and show how much courage and strength they have proven and what hope can be derived from it. From him we also learned about the project of the gigantic wall, which is 4 meters high and 400km along the coast to hold tsunamis.

In his opinion, no wall can be high or strong enough to withstand these forces of nature. However, this wall destroys the rest of what has remained to the local people: the beautiful nature. We also got to know the project "Paying forward coffee" that night and enjoyed delicious snacks and live music. The next few days N and M took excellent care of us and allowed us to spend wonderful hours together in Onsen, at shrines, on a volcano, at a dinner with the other Fukushima Servas host T and at festivities. At the end of our trip, we visited them again when we had to return our car to Sendai.

In Kami, we enjoyed the quiet life away from the cities with our hosts M and M were taken to an apple orchard with delicious apples, learned about the life of the Samurai, talked to M about international student exchanges and learned about M's work as a veterinarian specialist for pigs. Once again we could taste the good local cuisine extensively.

After Kami we did not have any Servas contacts for a long time because we did not find any hosts. But we had a whole bunch of tips in the bag from our last hosts. So it was that we explored the north of the main island Honshu so extensively that we decided in Aomori, not to drive to Hokaido, but to visit Honshu very extensively on this trip. On October 12, the typhoon Hagibis raged over Japan, leaving more than 90 dead and immense damage. We experienced live how the warnings got closer and were worried about our newly won friends, some of them waiting for their evacuation on packed suitcases. We ourselves were incredibly lucky to just see heavy rain from our hotel window on the 8th floor in Niigata on the west coast, but faced no danger in our area.

We went on to Tsu in Mie Prefecture, to our hosts S and H. Here we were right in the countryside and the two were committed to organic farming. They were even in Kenya for a while and tried to teach the methods there, and it was very exciting to listen to their experiences. Together with S we visited the Ise shrine, which is something like the Mecca of Japan. We met her old friend and neighbor and she and S dressed me in a kimono and surprised me by giving it to me! That absolutely broke my tongue, which is not common in my life. The generosity in Japan has surprised us everywhere. Even friends of our hosts gave us fruit or other little things again and again, which almost embarrassed us, because except for our hosts we had packed no presents

After Tsu, our trip to Kyoto took us to T and K and here again I have to say a special thank you! Not only that the two open their house to many Servas guests and show their great hospitality so that we were allowed to be there with an American and an English couple in a row, they also saved us from a desperate situation! In Kyoto, I got an appendicitis on the weekend before the coronation of the new Emperor. Not only did T travel with us to a hospital, which was willing to accept a foreign patient on a weekend, he also translated everything from English into Japanese. We would have helplessly failed here, because even my name and date of birth had to be translated into Japanese! Even Google would certainly have been of no help to us in this situation.

As only an ambulant antibiotic therapy was tried, T invited us as a matter of course to live with them for the next three days and drove daily as an interpreter to the hospital. In the end I had to be admitted to the surgery, so at long last we stayed at K's and T's house for a full fortnight and they took care of us with much effort and love. We tried to thank them in the last few days by cooking dishes from Europe several times, but we know that there is nothing in the world we could pay for what they had done us good.

We also met Y and S from Otsu in their house who we actually wanted to visit after Kyoto, which was not possible now. They brought with them very delicious homemade bread, because they have a bakery and try to bake German recipes. It really was a blessing, because in Japan there is otherwise only toast bread and similar soft, light bread to buy. Unfortunately, my illness has thrown the other travel plans and Servas visits over, since time was too short and we only came as far as the islets off Kure and not down to Kyushu what made me very sad because I had a very nice contact by mail to A in Nagasaki already. We had to leave this for another trip. We brought our car all the way back to Sendai at the end of November, stopping at many beautiful places like Maebashi and Nikko, which gave us wonderful sights and walks into the colorful autumn forests and views of snow-capped mountains.

We visited our Servas friends in Fukushima again and painted our own "Kokeshis" (Japanese dolls) at a workshop, made toys with N and her friends and took a trip into nature together. By train we went to Fuji and we enjoyed the view of Fujiyama from a hostel and finally spent two more nights with our first hosts R and N in Tokyo. It was like coming home and we had many interesting conversations and made a tunnel tour through the area around Tokyo station due to the bad weather. Once out of the tunnel, we got to know the "Harrods" of Tokyo, the oldest and super noble shop: "Mitsukoshi".

Many thanks to all our dear Servas friends and also to those who had invited us, but due to time constraints we could not visit anymore.

Bad Harzburg, 7.12.2019

"Language Lesson & Servas Visit" Germany L. C. S

I have been to Japan a couple of times for short business trips and got fascinated by the Japanese culture and language. Then I decided to spend 2 weeks in Japan in September 2019 to learn Japanese in a private language school located in Kyoto.

Actually I visit a different country every year for about 1 or 2 weeks to learn more about the local language and culture. Usually I stay with Servas families, since this is a great way get in contact. So far I have visited more than 100 Servas families in 19 countries.

In this case though, in order to be able to attend the Japanese lessons every morning, without having to move every 2 days from one family to the other, I chose to do home-stay with a family organized by the language school. Then, to complement this great cultural experience I met some Servas friends almost every day after the lessons: with W.H San I went for nice walks in Kyoto and even participated twice in the Japanese lessons offered by the Kyoto International Community House (国際交流会館), where she works as a volunteer.

I went on day trips to Nara to meet K. J San and to Osaka where I met K.K San. Besides that, I. M San came one afternoon from Osaka to meet me in Kyoto.

One of the greatest experiences was being invited by H.T San to go to her house to have dinner with other Servas guests from San Sebastian, Spain, who came to Japan for a Jazz festival. It was a great evening with a lot of talking in Japanese, Spanish and English, a lot of eating, singing, drinking, wearing kimonos...Wow! とても楽しいかった！！

At the end I was invited to stay for the night and to visit Fushimi Inari Shrine - in a walking distance from her place - early in the morning before the tourists arrive.

T San had also the great idea to call S. Y and S San to send us all - the Spaniards and myself - to stay with them in following week. And so we did. S family has a wonderful big house in Otsu (15 km from Kyoto) with a nice o-furo (お風呂) outside.

But the best of all is that we were invited to wake up early in the morning to go to the family bakery and bake with them for a couple of hours before the shop opens at 7am!!

とても面白い経験だった。

Just after the baking experience S San

brought me to the train station and so arrived perfectly in time for my Japanese lessons which started at 9am in Kyoto.

It was such a great experience taking regularly Japanese language lessons, being able to communicate a little bit in Japanese and learning a lot about the culture with Servas friends! But it didn't stop here: at the end of November a group of 10 Servas travelers came to Germany to spend 10 days. Among those was S San from the bakery and of course I traveled to meet the group and especially her!

All these encounters were so nice that I decided to travel again to Japan in April 2020 for the cherry blossom seasons and for more great Servas visits. 桜を見てみたいんです✿ Looking forward to it!!

楽しみにしています!　　Ingelheim am Rhein, Germany

3. SERVAS INTERNATIONAL

servas INTERNATIONAL
NEWS BULLETIN
FROM THE SERVAS INTERNATIONAL EXECUTIVE COMMITTEE
Vol.15 No.4 Oct-Dec 2019 Issue of SI News Bulletin

国際サーバス会報の紹介　　国際部　N.M

国際本部から 2019 年度最後の第 4 号が届きました。それによると SOL の個人登録者数が 11 月末で 13288 名となりました。ドイツおよびアメリカも今年内に登録完了を目指しており、更に増加する見込みだとい事です。それは良いのですが、2009 年度以降スタンプ使用による収入が減少の一途をたどっており、この傾向は今後も続きそうで、そのために国際本部では今年度会員数の倍増を目指す計画を立てています。具体的には各個人会員が一人ずつ新会員を増やすことができれば一挙に解決します。各会員が知り合いにメリットを説明してサーバスに勧誘していただく、サーバスの集まりや行事に誘ったり、インスタグラムやフェイスブックなどを活用する事も考えられる等とあり、この件に関して多くの紙面が費やされています。

嬉しい事に、ここ数年世界各地で多彩なイベントやミーティングが開かれています。それらを計画される国および地域はすぐにその内容を国際本部に知らせてほしい、そうしたら本部はすぐさまその情報を流しますとの事です。

編集後記にかえて　　会長　H.T

今回も色々な方が原稿をお寄せくださり、本部会報を皆様にお届けすることができた事、本当にありがとうございます。

年末~年始のお忙しい時に、会員の皆様には支部への報告、支部長様には本部への報告に対してご協

力頂き、とても感謝です。報告を読ませて頂いて、トラベラーの受入れや、サーバス旅行に多くの皆様が取り組まれている事を改めて感じました。今年もこのような取り組みが写真のような笑顔をもって行われ、サーバスの基本であるコミュニケーションを通じた世界平和を皆で模索して行けたら嬉しいです。

明るいニュースで始まった日本サーバスの 2020 年、これに続いて幸先の良い 1 年でありますようにと願っています。